

スイッチのCDP設定

目的

Cisco Discovery Protocol(CDP)は、シスコデバイスが接続されている他のシスコデバイスとデバイス情報を共有するために使用するプロトコルです。これには、デバイスのタイプ、ファームウェアバージョン、IPアドレス、シリアル番号、およびその他の識別情報が含まれます。CDP設定は、グローバルに、またはスイッチの個々のポートごとに調整できます。

CDPは、Link Layer Discovery Protocol(LLDP)と同様に、直接接続されたネイバーが自身とその機能を相互にアドバタイズするためのリンク層プロトコルです。ただし、LLDPとは異なり、CDPはシスコ独自のプロトコルです。

この記事では、次のワークフローをカバーするグラフィカルユーザインターフェイス(GUI)を使用してスイッチのCDP設定を設定する方法について説明します。

1. [スイッチでCDPグローバルパラメータを設定します。](#)
2. [インターフェイスごとにCDP設定を行います。](#)

を選択します。(オプション) Auto Smartportを使用してCDPデバイスの機能を検出する場合は、SmartportプロパティでCDP設定を行います。手順については[ここ](#)をクリックしてください。

該当するデバイス

- Sx350シリーズ
- SG350Xシリーズ
- Sx500シリーズ
- Sx550Xシリーズ

[Software Version]

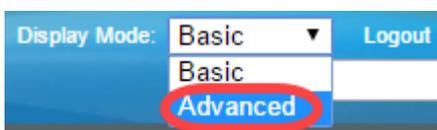
- 2.3.0.130

CDPプロパティの設定

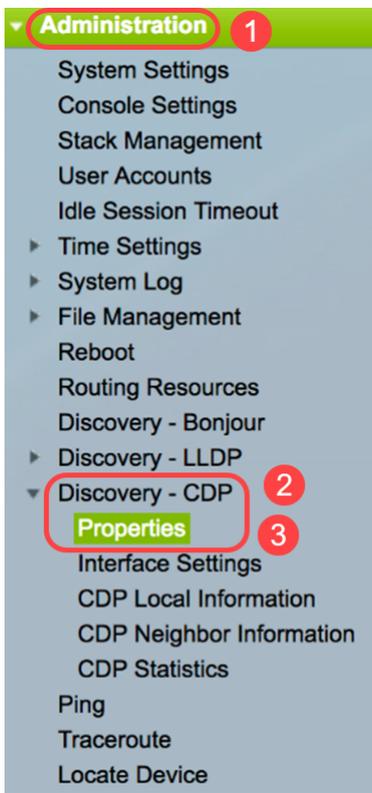
CDPグローバルプロパティの設定

ステップ1: スwitchのWebベースのユーティリティにログインし、[Display Mode]ドロップダウンリストで[Advanced]を選択します。

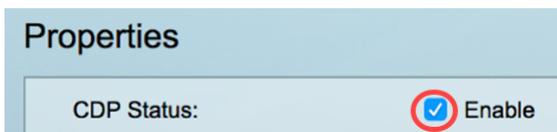
注: 使用できるメニューオプションは、デバイスのモデルによって異なります。この例では、SG350X-48MPが使用されています。



ステップ2: [Administration] > [Discovery - CDP] > [Properties]を選択します。



ステップ3:[CDP Status]領域で[Enable]チェックボックスをオンにして、スイッチ上でCDPをアクティブにします。このコマンドはデフォルトで有効になっています。CDPを有効にした場合は、ステップ5に[進みます](#)。



ステップ4: (オプション) [CDP Frames Handling]領域で、スイッチがCDPパケットを受信したときに実行するアクションに対応するオプションボタンを選択します。このエリアは、スイッチでCDPが無効になっている場合にのみ使用できます。オプションを選択したら、ステップ13に[進みます](#)。



次のオプションがあります。

- **ブリッジング**: CDPがグローバルに無効になっている場合、CDPパケットは通常のデータパケットとしてブリッジされ、仮想ローカルエリアネットワーク(VLAN)に基づいて転送されます。
- **フィルタリング**: CDPがグローバルに無効になっている場合、CDPパケットはフィルタリングまたは削除されます。
- **フラッディング**: CDPがグローバルで無効になっている場合、CDPパケットはスパニングツリープロトコル(STP)フォワーディングステートにある製品のすべてのポートにフラッディングされ、VLANフィルタリングルールは無視されます。

ステップ5:[CDP Voice VLAN Advertisement] 領域で、[Enable] チェックボックスをオンにして、CDPが有効で音声VLANのメンバーであるすべてのポートで音声VLANをCDP経由でアドバタイズさせます。

CDP Voice VLAN Advertisement: Enable

ステップ6:[*CDP Mandatory TLVs Validation*]領域で、[**Enable**]チェックボックスをオンにして、必須のtype-length-value(TLV)を含まない着信CDPパケットを廃棄します。

CDP Voice VLAN Advertisement: Enable

CDP Mandatory TLVs Validation: Enable

ステップ7:[*CDP Version*]領域で、ラジオボタンをクリックして、使用するCDPのバージョンを選択します。CDPv2はプロトコルの最新リリースで、よりインテリジェントなデバイスストラッキング機能を提供します。

CDP Version:

Version 1
 Version 2

注：この例では、バージョン2が選択されています。

ステップ8:[*CDP Hold Time*]領域で、ラジオボタンをクリックして、廃棄される前にCDPパケットが保持される時間を決定します。

次のオプションがあります。

- *Use Default* : クリックすると、デフォルトの180秒の時間が使用されます。
- *User Defined* : クリックすると、フィールドに10 ~ 255秒のカスタム時間が入力されます。

CDP Hold Time:

Use Default
 User Defined 240 sec

注：この例では、ホールドタイム期間を240秒に設定します。

ステップ9:[*CDP Transmission Rate*]フィールドで、ラジオボタンを選択し、CDPパケットの送信レートを秒単位で決定します。

次のオプションがあります。

- *デフォルトの使用* : クリックすると、デフォルトの60秒の時間が使用されます。
- *User Defined* : フィールドに5 ~ 254秒のカスタム時間を入力します。

CDP Transmission Rate:

Use Default
 User Defined 120 sec

ステップ10:[*Device ID Format*]フィールドで、ラジオボタンをクリックして、デバイスIDの形式を決定します。

次のオプションがあります。

- *MAC Address*:Device-ID TLVにデバイスのMACアドレスが含まれていることを指定します。
- *Serial Number*:Device-ID TLVにデバイスのハードウェアシリアル番号が含まれていることを指定します。
- *Hostname*:Device-ID TLVにデバイスのホスト名が含まれていることを指定します。

Device ID Format:

- MAC Address
- Serial Number
- Hostname

注：この例では、[MAC Address]が選択されています。

ステップ11:[Source Interface]領域で、オプションボタンを選択して、発信CDPパケットのTLVフィールドに配置するIPアドレスを決定します。

次のオプションがあります。

- *Use Default* : 発信インターフェイスのIPアドレスを使用するときにクリックします。このオプションを選択した場合は、ステップ13に進みます。
- *User Defined*:[Interface]領域のドロップダウンリストから、インターフェイス (インターフェイスの選択されたIPアドレスが使用されます) を選択します。

Source Interface:

- Use Default
- User Defined

注：この例では、[User Defined]が選択されています。

ステップ12: (オプション) [インターフェイス]領域で、対応するドロップダウンリストからユニットとポートを選択します。

Source Interface:

- Use Default
- User Defined

Interface:

Unit 1 Port GE1

ステップ13:[Syslog Voice VLAN Mismatch]領域で、[Enable]チェックボックスをオンにして、音声VLANの不一致が検出された場合にsyslogメッセージを送信します。VLANの不一致は、着信フレームのVLAN情報がローカルデバイスのアダプタイズされた機能と一致しない場合です。

Syslog Voice VLAN Mismatch: Enable

ステップ14:[Syslog Native VLAN Mismatch]領域で、[Enable]チェックボックスをオンにして、ネイティブVLANのミスマッチが検出されたときにsyslogメッセージを送信します。

Syslog Voice VLAN Mismatch: Enable

Syslog Native VLAN Mismatch: Enable

ステップ15:[Syslog Duplex Mismatch]領域で、[Enable]チェックボックスをオンにして、デュプレックスのミスマッチが検出された場合にsyslogメッセージを送信します。

Syslog Voice VLAN Mismatch: Enable

Syslog Native VLAN Mismatch: Enable

Syslog Duplex Mismatch: Enable

ステップ16:[Apply]をクリックします。

Properties

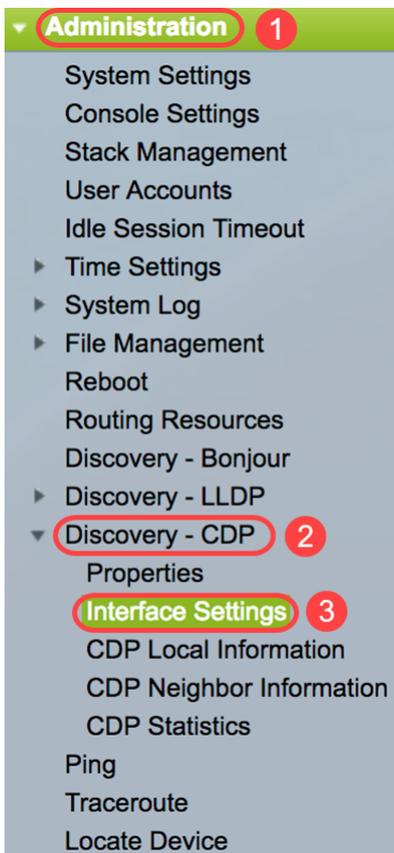
CDP Status:	<input checked="" type="checkbox"/> Enable
CDP Frames Handling:	<input checked="" type="radio"/> Bridging <input type="radio"/> Filtering <input type="radio"/> Flooding
CDP Voice VLAN Advertisement:	<input checked="" type="checkbox"/> Enable
CDP Mandatory TLVs Validation:	<input checked="" type="checkbox"/> Enable
CDP Version:	<input type="radio"/> Version 1 <input checked="" type="radio"/> Version 2
CDP Hold Time:	<input type="radio"/> Use Default <input checked="" type="radio"/> User Defined <input type="text" value="240"/> sec
CDP Transmission Rate:	<input type="radio"/> Use Default <input checked="" type="radio"/> User Defined <input type="text" value="120"/> sec
Device ID Format:	<input checked="" type="radio"/> MAC Address <input type="radio"/> Serial Number <input type="radio"/> Hostname
Source Interface:	<input type="radio"/> Use Default <input checked="" type="radio"/> User Defined
Interface:	Unit <input type="text" value="1"/> Port <input type="text" value="GE1"/>
Syslog Voice VLAN Mismatch:	<input checked="" type="checkbox"/> Enable
Syslog Native VLAN Mismatch:	<input checked="" type="checkbox"/> Enable
Syslog Duplex Mismatch:	<input checked="" type="checkbox"/> Enable

これで、スイッチのグローバルCDP設定が正常に設定されました。

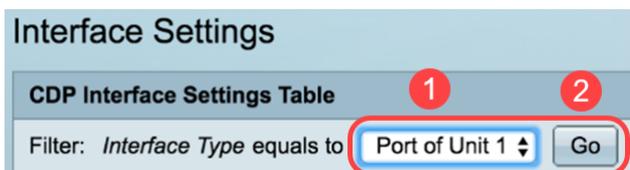
CDPインターフェイスのプロパティの設定

ステップ1: Webベースのユーティリティにログインし、[Administration] > [Discovery-CDP] > [Interface Settings]を選択します。

注：このページは、詳細表示モードでのみ使用できます。表示モードは、Webユーティリティの右上隅にあるドロップダウンリストで変更できます。



ステップ2: (オプション) フィルタを選択するには、ユニットを選択して「進む」をクリックします。この例では、ユニット1のポートが選択されています。



注：スイッチがスタックの一部である場合は、テーブルの上部にあるドロップダウンリストを使用して、スタック内の他のユニットのインターフェイスを表示できます。

ステップ3:[CDP Interface Settings Table]で、設定するインターフェイスのオプションボタンを選択します。

	Entry No.	Interface	CDP Status	Reporting Conflicts with CDP Neighbors			No. of Neighbors
				Voice VLAN	Native VLAN	Duplex	
<input type="radio"/>	1	GE1	Enabled	Enabled	Enabled	Enabled	5
<input checked="" type="radio"/>	2	GE2	Enabled	Enabled	Enabled	Enabled	1
<input type="radio"/>	3	GE3	Enabled	Enabled	Enabled	Enabled	0
<input type="radio"/>	4	GE4	Enabled	Enabled	Enabled	Enabled	5

ステップ4：下にスクロールし、[Edit]をクリックします。

<input type="radio"/>	48	GE48	Enabled	Enabled	Enabled	Enabled	5
<input type="radio"/>	49	XG3	Enabled	Enabled	Enabled	Enabled	5
<input type="radio"/>	50	XG4	Enabled	Enabled	Enabled	Enabled	5

Buttons: Copy Settings... Edit... CDP Local Information Details

ステップ5:[Interface]領域に[CDP Interface Settings]テーブルで選択したポートが表示されます。[ユニット(Unit)]および[ポート(Port)]ドロップダウンリストを使用して、設定する別のユニットとポートをそれぞれ選択できます。

Interface:

Unit Port

ステップ6:[CDP Status]領域で、[Enable]チェックボックスをオンにして、指定したポートでCDPを有効にします。

CDP Status: Enable

ステップ7:[Syslog Voice VLAN Mismatch] 領域で、[Enable] チェックボックスをオンにして、指定したポートで音声VLANの不一致が検出されたときにsyslogメッセージを送信します。VLANの不一致は、着信フレームのVLAN情報がローカルデバイスのアドバタイズされた機能と一致しない場合です。

Syslog Voice VLAN Mismatch: Enable

ステップ8:[Syslog Native VLAN Mismatch] 領域で、[Enable] チェックボックスをオンにして、指定したポートでネイティブVLANの不一致が検出されたときにsyslogメッセージを送信します。

Syslog Native VLAN Mismatch: Enable

ステップ9:[Syslog Duplex Mismatch] 領域で、[Enable] チェックボックスをオンにして、指定したポートでデュプレックスのミスマッチが検出されたときにsyslogメッセージを送信します。

Syslog Duplex Mismatch: Enable

ステップ10:[Apply]をクリックし、[Close]をクリックします。変更は指定されたポートに適用されます。

Interface: Port

CDP Status: Enable

Syslog Voice VLAN Mismatch: Enable

Syslog Native VLAN Mismatch: Enable

Syslog Duplex Mismatch: Enable

ステップ11. (オプション) ポートの設定を別のポートに迅速にコピーするには、そのラジオボタンを選択して下にスクロールし、[設定のコピー(Copy Settings)]ボタンをクリックします。

Filter: *Interface Type* equals to

	Entry No.	Interface	CDP Status	Reporting Conflicts with CDP Neighbors			No. of Neighbors
				Voice VLAN	Native VLAN	Duplex	
<input type="radio"/>	1	GE1	Enabled	Enabled	Enabled	Enabled	5
<input checked="" type="radio"/>	2	GE2	Enabled	Enabled	Enabled	Enabled	1
<input type="radio"/>	3	GE3	Enabled	Enabled	Enabled	Enabled	0
<input type="radio"/>	4	GE4	Enabled	Enabled	Enabled	Enabled	5

<input type="radio"/>	48	GE48	Enabled	Enabled	Enabled	Enable
<input type="radio"/>	49	XG3	Enabled	Enabled	Enabled	Enable
<input type="radio"/>	50	XG4	Enabled	Enabled	Enabled	Enable

Copy Settings... Edit... CDP Local Information Details

注：この例では、GE2が選択されています。

ステップ12: (オプション) [Copy configuration from entry]フィールドに、指定したポートの設定をコピーするポート (複数可) をカンマで区切って入力します。ポートの範囲を入力することもできます。

Copy configuration from entry 2 (GE2)

to: (Example: 1,3,5-10 or: GE1,GE3-XG4)

注：この例では、ポート2のCDP設定がポート13と15 ~ 20に適用されます。

ステップ13:[Apply]をクリックし、[Close]をクリックします。CDPポート設定をコピーする必要があります。

Copy configuration from entry 2 (GE2)

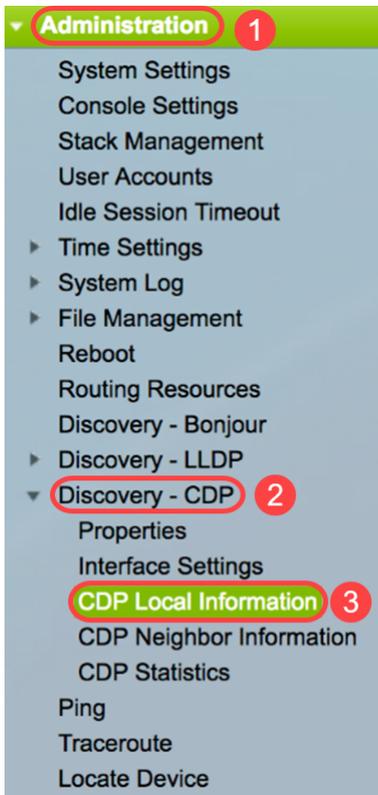
to: (Example: 1,3,5-10 or: GE1,GE3-XG4)

これで、スイッチのポートでCDP設定が正常に設定されたはずですが。

CDP設定の表示またはクリア

CDPローカル情報

ステップ1：スイッチのCDPローカル情報を表示するには、[Administration] > [Discovery - CDP] > [CDP Local Information]を選択します。



ステップ2:[インターフェイス]領域で、対応するドロップダウンリストからユニットとポートを選択します。

CDP Local Information

Interface: Unit Port

注：この例では、ユニット1のポートGE1のCDPローカル情報が表示されます。

CDP Local Information

Interface:	Unit 1 Port GE1
CDP State:	Enabled
Device ID TLV	
Device ID Type:	MAC address
Device ID:	40:a6:e8:e6:f4:d3
System Name TLV	
System Name:	SG350X
Address TLV	
Address 1:	192.168.100.148
Address 2:	N/A
Address 3:	fe80::42a6:e8ff:fee6:f4d3 vlan1
Port TLV	
Port ID:	gi1/0/1
Capabilities TLV	
Capabilities:	Router, Switch, IGMP
Version TLV	
Version:	2.3.0.130
Platform TLV	
Platform:	Cisco SG350X-48MP (PID:SG350X-48MP)-VSD
Native VLAN TLV	
Native VLAN:	1
Full/Half Duplex TLV	
Duplex:	Full
Appliance TLV	
Appliance ID:	N/A
Appliance VLAN ID:	N/A
Extended Trust TLV	
Extended Trust:	0
CoS for Untrusted Ports TLV	
CoS for Untrusted Ports:	0
Power Available TLV	
Request ID:	0
Power Management ID:	17818
Available Power:	30000 milliwatts
Management Power Level:	No preference
4-Wire Power via MDI (UPOE) TLV	
4-Pair PoE Supported:	No
Spare Pair Detection/Classification Required:	No
PD Spare Pair Desired State:	Disabled
PD Spare Pair Operational State:	Disabled

次の詳細が表示されます。

CDP State: CDPが有効になっているかどうかを表示します。

デバイスID TLV

- *Device ID Type* : デバイスID TLVでアドバタイズされるデバイスIDのタイプ。
- *Device ID* : デバイスID TLVでアドバタイズされるデバイスID。

システム名 TLV

- *System Name* : デバイスのシステム名。

アドレスTLV

- *アドレス1-3*: IPアドレス (デバイスアドレスTLVでアドバタイズ) 。

ポートTLV

- *Port ID* : ポートTLVでアドバタイズされたポートのID。

機能TLV

- **機能**：ポートTLVでアドバタイズされる機能。

バージョンTLV

- **バージョン**：デバイスが実行されているソフトウェアリリースに関する情報。

プラットフォームTLV

- **プラットフォーム**：プラットフォームTLVでアドバタイズされるプラットフォームの識別子。

ネイティブVLAN TLV

- **ネイティブVLAN**：ネイティブVLAN TLVでアドバタイズされるネイティブVLAN ID。

全二重/半二重TLV

- **Duplex**：ポートが全二重/半二重TLVでアドバタイズされた半二重か全二重かを示します。

アプライアンスTLV

- **アプライアンスID**：アプライアンスTLVでアドバタイズされたポートに接続されているデバイスのタイプ。
- **アプライアンスVLAN ID**：アプライアンスが使用するデバイスのVLAN。たとえば、アプライアンスがIP Phoneの場合、これは音声VLANです。

拡張信頼TLV

- **Extended Trust.Enabled**は、ポートが信頼できることを示します。つまり、パケットを受信したホスト/サーバが、パケット自体をマークするために信頼できることを意味します。この場合、そのようなポートで受信されたパケットは再マーキングされません。**[無効(Disabled)]**は、ポートが信頼されていないことを示します。この場合、次のフィールドが関連しています。

信頼できないポートのTLVのCoS

- **信頼できないポートのCoS**：ポートでExtended Trustが無効になっている場合、このフィールドにはレイヤ2 CoS値 (802.1D/802.1pプライオリティ値) が表示されます。これは、信頼できないポートで受信されたすべてのパケットがデバイスによって再マーキングされるCOS値です。

使用可能な電源TLV

- **Request ID:Last power request ID received**は、Power Requested TLVで最後に受信したRequest-IDフィールドをエコーします。インターフェイスが最後にUpに移行してから、Power Requested TLVが受信されなかった場合は0です。
- **電源管理ID**：次のいずれかのイベントが発生するたびに1ずつ (または2ずつ) 増加します (0は回避) 。

使用可能な電力または管理電力レベルの変更

Power Requested TLVは、最後に受信したセット (または最初の値を受信した場合) とは異

なるRequest-ID領域で受信されます。 インターフェイスが[Down]に移行します。

- *Available Power* : ポートが消費する電力量。
- *管理電力レベル* : ポッドデバイスに対する電力消費量TLVのサプライヤの要求を表示します。このフィールドには、常に[No Preference]と表示されます。

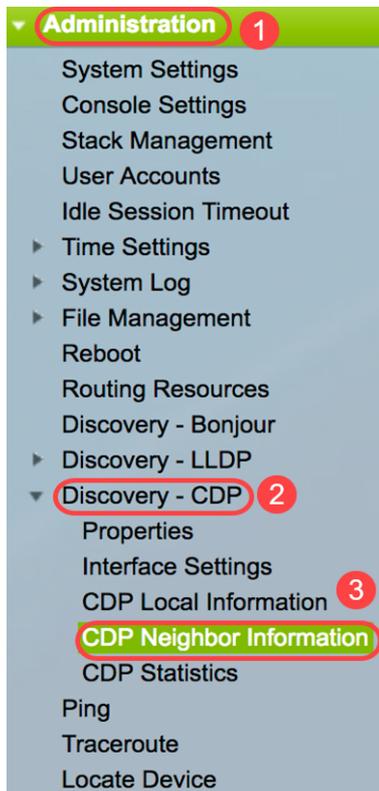
MDI(UPOE)TLVによる4線式電力

このTLVがサポートされているかどうかを表示します。

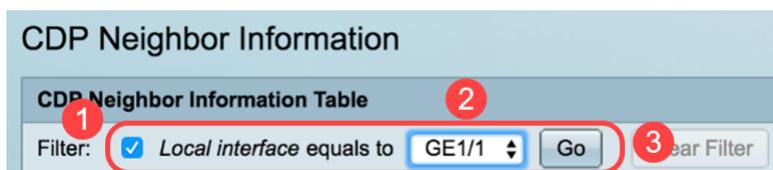
- *4-Pair PoE Supported*:PoEがサポートされているかどうかを表示します。
- *Spare Pair Detection/Classification Required* : この分類が必要かどうかを表示します。
- *PD Spare Pair Desired State*:PDスペアペアのdesired状態を表示します。
- *PDスペアペア動作状態*:PSEスペアペアの状態を表示します。

CDPネイバー情報

ステップ1 : スイッチのCDPネイバー情報を表示するには、[Administration] > [Discovery - CDP] > [CDP Neighbor Information]を選択します。



ステップ2: (オプション) フィルタを選択するには、[フィルタ]チェックボックスをオンにし、[ローカルインターフェイス]を選択し、[Go]をクリックします。



[CDP Neighbor Information]ページには、リンクパートナー (ネイバー) の次のフィールドがあります。

- *Device ID* : ネイバーデバイスID。
- *System Name* : ネイバーのシステム名。

- *Local Interface* : ネイバーが接続されているローカルポートの番号。
- *アドバタイズメントバージョン*: CDPプロトコルバージョン。
- *Time to Live (sec)* : このネイバーの情報が削除されるまでの時間間隔 (秒) 。
- *機能* : ネイバーによってアドバタイズされる機能。
- *プラットフォーム* : ネイバーのプラットフォームTLVからの情報。
- *ネイバーインターフェイス* : ネイバーの発信インターフェイス。

CDP Neighbor Information

CDP Neighbor Information Table

Filter: Local interface equals to GE1/1

Device ID	System Name	Local Interface	Advertisement Version	Time to Live (sec)	Capabilities	Platform	Neighbor Interface
40a6e8e6f4d3	SG350X	GE1/1	2	158	Router, Switch, IGMP	Cisco SG350X-48MP (PID:SG350X-48MP)-VSD	gi1/0/4
c07bbc12ccde	SG500	GE1/1	2	147	Router, Switch, IGMP	Cisco SG500X-48MP (PID:SG500X-48MP-K9)-VSD	gi1/1/9
40a6e8e6f4d3	SG350X	GE1/1	2	158	Router, Switch, IGMP	Cisco SG350X-48MP (PID:SG350X-48MP)-VSD	gi1/0/26
c4729533532b	SG550XG	GE1/1	2	132	Router, Switch, IGMP	Cisco SG550XG-24T (PID:SG550XG-24T)-VSD	oob
c47295431b57	SG550XG-16P	GE1/1	2	135	Router, Switch, IGMP	Cisco SG550XG-8F8T (PID:SG550XG-8F8T)-VSD	oob

ステップ3: (オプション) 特定のネイバーのCDPネイバーの詳細を表示するには、そのデバイスIDオプションボタンをクリックし、次にDetailsボタンをクリックします。

CDP Neighbor Information Table

Filter: Local interface equals to GE1/1

Device ID	System Name	Local Interface	Advertisement Version	Time to Live (sec)	Capabilities
40a6e8e6f4d3	SG350X	GE1/1	2	158	Router, Switch, IGMP
c07bbc12ccde	SG500	GE1/1	2	147	Router, Switch, IGMP
40a6e8e6f4d3	SG350X	GE1/1	2	158	Router, Switch, IGMP
c4729533532b	SG550XG	GE1/1	2	132	Router, Switch, IGMP
c47295431b57	SG550XG-16P	GE1/1	2	135	Router, Switch, IGMP

注 : この例では、デバイスID 40a6e8e6f4d3の情報が表示されます。

Device ID:	40a6e8e6f4d3
System Name:	SG350X
Local Interface:	GE1/1
Advertisement Version:	2
Time to Live:	174 sec
Capabilities:	Router, Switch, IGMP
Platform:	Cisco SG350X-48MP (PID:SG350X-48MP)-VSD
Neighbor Interface:	gi1/0/4
Native VLAN:	1
Duplex:	Full
Addresses:	192.168.100.148, fe80::42a6:e8ff:fee6:f4d3
Power Drawn:	0.000 Watts
Version:	2.3.0.130
Power Request	
Power Request List:	N/A
4-Wire Power via MDI	
4-Pair PoE Supported:	No
Spare Pair Detection/Classification Required:	No
PD Spare Pair Desired State:	Disabled
PD Spare Pair Operational State:	Disabled

このページには、ネイバーに関する次の情報が含まれています。

- *Device ID* : 隣接デバイスIDの識別子。
- *System Name* : 隣接デバイスIDの名前。
- *ローカルインターフェイス* : フレームが到着したポートのインターフェイス番号。
- *Advertisement Version*: CDPのバージョン。
- *Time to Live* : このネイバーの情報が削除されるまでの時間間隔 (秒)。
- *機能* : デバイスの主な機能。機能は2つのオクテットで示されます。ビット0 ~ 7は、Other、Repeater、Bridge、WLAN AP、Router、Telephone、DOCSISケーブルデバイス、およびステーションをそれぞれ示します。ビット8 ~ 15は予約されています。
- *プラットフォーム* : ネイバープラットフォームの識別子。
- *Neighbor Interface* : フレームが着信したネイバーのインターフェイス番号。
- *ネイティブVLAN* : ネイバーのネイティブVLAN。
- *Application* : ネイバーで実行されているアプリケーションの名前。
- *Duplex* : ネイバーインターフェイスが半二重か全二重かを示します。
- *Addresses* : ネイバーのアドレス。
- *Power Drawn* : インターフェイス上のネイバーによって消費された電力の量。
- *Version* : ネイバーのソフトウェアバージョン。

電源要求

- *Request ID*: Last power request ID receivedは、Power Requested TLVで最後に受信したRequest-IDフィールドをエコーします。インターフェイスが最後にUpに移行してから、Power Requested TLVが受信されなかった場合は0です。
- *電源管理ID* : 次のいずれかのイベントが発生するたびに1ずつ (または2ずつ) 増加します (0は回避)。

[Available-Power]エリアまたは[Management Power Level]エリアの値が変更されます。Power Requested TLVは、最後に受信したセット (または最初の値を受信した場合) とは異なるRequest-IDフィールドで受信されます。インターフェイスが[Down]に移行します。

- *Available Power* : ポートが消費する電力量。
- *管理電力レベル* : ポッドデバイスに対する電力消費量TLVのサプライヤの要求を表示します。この領域では、デバイスに常に「No Preference」と表示されます。

MDIによる4線式電力

- *4-Pair PoE Supported*: 4ペアワイヤを有効にするシステムおよびポートのサポートを示します (このハードウェア機能を持つ特定のポートにのみ該当)。
- *Spare Pair Detection/Classification Required*: 4ペアワイヤが必要であることを示します。
- *PD Spare Pair Desired State*: 4ペア機能を有効にするよう要求しているポッドデバイスを示します。
- *PDスペアペア動作状態*: 4ペア機能が有効か無効かを示します。

ステップ4: (オプション) [閉じる]ボタンをクリックし、詳細なCDPネイバーウィンドウを閉じます。

Device ID:	40a6e8e6f4d3
System Name:	SG350X
Local Interface:	GE1/1
Advertisement Version:	2
Time to Live:	174 sec
Capabilities:	Router, Switch, IGMP
Platform:	Cisco SG350X-48MP (PID:SG350X-48MP)-VSD
Neighbor Interface:	gi1/0/4
Native VLAN:	1
Duplex:	Full
Addresses:	192.168.100.148, fe80::42a6:e8ff:fee6:f4d3
Power Drawn:	0.000 Watts
Version:	2.3.0.130
Power Request	
Power Request List:	N/A
4-Wire Power via MDI	
4-Pair PoE Supported:	No
Spare Pair Detection/Classification Required:	No
PD Spare Pair Desired State:	Disabled
PD Spare Pair Operational State:	Disabled

Close

ステップ5: (オプション) CDPから接続されているすべてのデバイスを切断するには、[Clear Table]ボタンをクリックします。Auto Smartportが有効になっている場合は、すべてのポートタイプがデフォルトに変更されます。

CDP Neighbor Information

CDP Neighbor Information Table						
Filter:	<input checked="" type="checkbox"/> Local interface equals to	GE1/1	Go	Clear Filter		
Device ID	System Name	Local Interface	Advertisement Version	Time to Live (sec)	Capabilities	
● 40a6e8e6f4d3	SG350X	GE1/1	2	158	Router, Switch, IGMP	
● c07bbc12ccde	SG500	GE1/1	2	147	Router, Switch, IGMP	
● 40a6e8e6f4d3	SG350X	GE1/1	2	158	Router, Switch, IGMP	
● c4729533532b	SG550XG	GE1/1	2	132	Router, Switch, IGMP	
● c47295431b57	SG550XG-16P	GE1/1	2	135	Router, Switch, IGMP	
Clear Table	Details...	Refresh				

ステップ6: (オプション) [Refresh]ボタンをクリックし、[CDP Neighbor Information Table]を更新します。

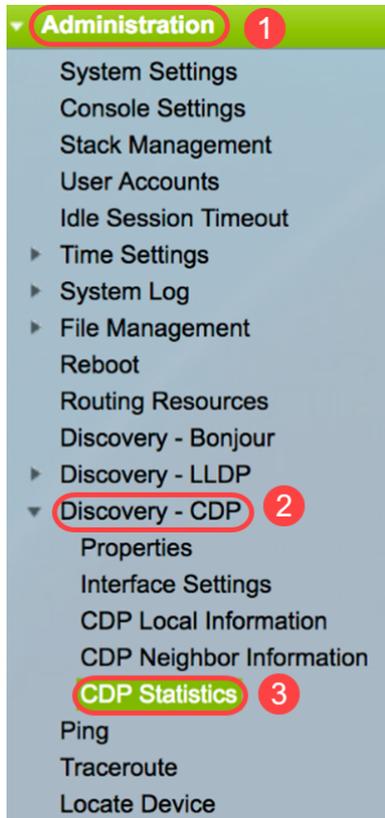
CDP Neighbor Information

CDP Neighbor Information Table						
Filter:	<input checked="" type="checkbox"/> Local interface equals to	GE1/1	Go	Clear Filter		
Device ID	System Name	Local Interface	Advertisement Version	Time to Live (sec)	Capabilities	
● 40a6e8e6f4d3	SG350X	GE1/1	2	158	Router, Switch, IGMP	
● c07bbc12ccde	SG500	GE1/1	2	147	Router, Switch, IGMP	
● 40a6e8e6f4d3	SG350X	GE1/1	2	158	Router, Switch, IGMP	
● c4729533532b	SG550XG	GE1/1	2	132	Router, Switch, IGMP	
● c47295431b57	SG550XG-16P	GE1/1	2	135	Router, Switch, IGMP	
Clear Table	Details...	Refresh				

CDP統計情報

[CDP Statistics]ページには、ポートから送受信されるCDPフレームに関する情報が表示されます。CDPパケットは、スイッチインターフェイスに接続されたデバイスから受信され、Smartport機能に使用されます。

ステップ1: スwitchのCDP統計情報を表示するには、[Administration] > [Discovery - CDP] > [CDP Statistics]を選択します。



ステップ2: (オプション) フィルタを選択するには、ユニットを選択して「進む」をクリックします。この例では、ユニット1のポートが選択されています。

CDP Statistics

CDP Statistics Table										
Filter: Interface Type equals to Port of Unit 1 <input type="button" value="Go"/>										
	Interface	Packets Received			Packets Transmitted			CDP Error Statistics		
		Version 1	Version 2	Total	Version 1	Version 2	Total	Illegal Checksum	Other Errors	Neighbors Over Maximum
<input type="radio"/>	GE1	0	1382	1382	0	277	277	0	0	0
<input type="radio"/>	GE2	0	277	277	0	277	277	0	0	0
<input type="radio"/>	GE3	0	0	0	0	277	277	0	0	0
<input type="radio"/>	GE4	0	1382	1382	0	277	277	0	0	0
<input type="radio"/>	GE5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE12	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE13	0	274	274	0	277	277	0	0	0
<input type="radio"/>	GE14	0	281	281	0	276	276	0	0	0
<input type="radio"/>	GE15	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE17	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE18	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE19	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE20	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE21	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE22	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE23	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE24	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE25	0	282	282	0	276	276	0	0	0
<input type="radio"/>	GE26	0	1380	1380	0	277	277	0	0	0
<input type="radio"/>	GE27	0	0	0	0	0	0	0	0	0

OOBポートを含むすべてのインターフェイスについて、次のフィールドが表示されます。

- 送受信パケット:

- バージョン1: 送受信されたCDPバージョン1パケットの数。

- バージョン2: 送受信されたCDPバージョン2パケットの数。

- Total: 送受信されたCDPパケットの総数。

- CDPエラー統計情報: このセクションでは、CDPエラーカウンタを表示します。

- *Illegal Checksum* - 不正なチェックサム値で受信されたパケットの数。

- *Other Errors*: 不正なチェックサム以外のエラーで受信されたパケットの数。

- *Neighbors Over Maximum*: 空き領域がないため、パケット情報をキャッシュに保存できなかった回数。

ステップ3: (オプション) 特定のインターフェイスのカウンタをクリアするには、対応するインターフェイスのオプションボタンをクリックし、次に**Clear Interface Counters**をクリックします。

<input type="radio"/>	GE25	0	350	350	0	344	344	0	0	0
<input checked="" type="radio"/>	GE26	0	1717	1717	0	345	345	0	0	0
1 <input type="radio"/>	GE27	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE28	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE29	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE30	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE31	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE32	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE33	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE34	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE35	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE36	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE37	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE38	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE39	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE40	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE41	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE42	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE43	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE44	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE45	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE46	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE47	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	GE48	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	XG3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="radio"/>	XG4	2	0	0	0	0	0	0	0	0
<input type="button" value="Clear Interface Counters"/>		<input type="button" value="Clear All Interface Counters"/>		<input type="button" value="Refresh"/>						

この例では、GE26が選択されています。

ステップ4: (オプション) すべてのインターフェイスのすべてのカウンタをクリアするには、[すべてのインターフェースカウンタをクリア]をクリックします。すべてのカウンタを更新するには、[更新]をクリックします。

これで、GUIを使用してスイッチのCDP設定が正常に行われたはずです。

コマンドラインインターフェイス(CLI)を使用してスイッチのCDP設定を構成するには、[ここをクリックします](#)。